

事例 28 UAV レーザ計測による立木調査等業務の実施

(林野庁)



- ・高知県しまんと四万十市もりがうちやま 森ヶ内山国有林
- ・(左) UAV レーザ計測に使用する無人航空機 (令和6(2024)年2月)
- ・(右) UAV レーザ計測による立木調査の様子 (令和6(2024)年2月)

林野庁では、リモートセンシング技術等の活用に向けた検討を進めており、この一環として UAV*レーザ計測による立木調査の効率化・省力化に取り組んでいます。

令和元(2019)年度及び令和3(2021)年度は、現地実証により、UAV レーザで計測した3次元点群データから得られる林分情報等から立木本数や胸高直径を推定し、林分材積の把握方法の検証に取り組みました。

これを踏まえ、令和4(2022)年度には近畿中国森林管理局管内の伐採予定箇所(約10ha)、令和5(2023)年度には四国森林管理局管内の伐採予定箇所(約12ha)において、UAV レーザ計測による立木調査を実施し、その結果、一定程度まとまりのある森林での立木調査業務の効率化に寄与する可能性が確認されました。

引き続き、各森林管理局における試行等に取り組み、各地域の特徴を踏まえた立木調査の効率化・省力化を進めていきます。

*UAV (Unmanned Aerial Vehicle、無人航空機)